

---

# 休めよ、剣

君影紫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

休めよ、剣

### 【Nコード】

N5852K

### 【作者名】

君影紫

### 【あらすじ】

魔王を倒す勇者を決めるために行われている“勇者戦”。魔物との混血である主人公、梓木・フィーネンド・邦彦は世界平和の為ではないけど、不本意ながらも“勇者戦”に出場する…そんな御嘶。

## 1 度目の決意

この世界に名前をつけた者がいるだろうか。今生きる人々が暮らす世界は、弾指よりも速い時間が連続し、ここにあり続けた。何度も何度も続く時間の確率は、知らない誰かの気まぐれのような果敢ないものだという。

そんな世界の流れる様は、まるでありきたりな小説を読んでいるかのようなだった。町の外は魔物だらけ。人々は恐れ、討伐に精を出す者、魔物たちの弱点を知る者、より強い武器や防具を作り出す者、人間にはない力を科学技術で補おうとする者……とそれらは確実に増えてゆき、そしていつの間にかは当たり前となった時代へと変わっていった。

そうした後、人々は魔王なる存在を知る。魔物たちを統べる其の人物は、人間では到底敵わない力を持っていた。それから人たちは絶望し、とある国王が苦し紛れに考えた“勇者戦”に希望を託すことにしたのだった。

それはこの世界、「ジャストケイオス」の名がついた頃だった。

あれから150年ほど経った、ある冬の事。青年は歴史の授業をぼんやり聞いていた。彼ら風萌学園高等学校の生徒らは、やはり魔王を倒すため学び舎の扉を叩いた者たちである。青年もまた、そうであった。

青年の名は、梓木・フィーネンド・邦彦。フィーネンドという魔物の名前が入っているのは、平たく言うと“テストネーム実験台名”で、魔物と人間の遺伝子を掛け合わせた混血であるミックスことを示すため、その魔物の名前を入れることが義務付けられている。

テストネーム実験台名を持つものは少なくない。寧ろ人間では持ち得ない能力を持ち、戦闘でも有利となるのだ。魔物の血が流れていればそれだ

けで身体能力も上がり、自然治癒能力もかなりのもの。ただ、人間に比べて成長するスピードが遅く、老い難くあれど、裏を返せばなかなか上達しないとも言える。また、人為的な遺伝子は子へ孫へ伝わることに薄らいでゆくもの。混血ミックスであり続けるため、邦彦の前々代（祖父）あたりからより濃く凝縮した新混血ニューミックスに進化している。

> i 5 6 6 4 — 7 6 7 <

「あー、梓木。君は出場しないのか？勇者戦に。」

授業が終わり、少し長い休み時間。図書館へと赴く邦彦を、コツジュームという魔物との混血ミックスの教師、日詰が呼び止めた。新混血ニューミックスからは見られないが、混血世代には外見に魔物の特徴が表れることがあるらしく、その日詰もコツジュームの鎖の肌質をしていた。

「…いえ、考え…させてください。まだまだあらゆることにおいて未熟ですから。」

邦彦は勇者戦なんてものに、実は興味がなかった。親らの希望で風萌学園に入り、取敢えず期待に応えようとは思ったが、魔王を倒そうなど野望は違う誰かにと任せていた。

日詰はやれやれと苦笑を漏らし、持っていたパンフレットを手渡す。

「これで何回目だろうな、君のそつけない返事は。未熟なんて謙遜にしか聴こえない。君は風萌学園創立以来最高の成績だよ。きつと君がフィーネンドとの新混血ニューミックスであるからかも知れないな。…目を通しておいてくれ。未来の勇者よ。」

そのまま日詰は踵を返し、西の研究室に姿を消した。邦彦の手元に残ったパンフレット。“翳せよ、剣”とレタリングされたタイトルの下に、前第14回戦勇賞者の少年の勇ましい写真がプリントされている。どうやらその少年は弱冠16歳、最年少で優勝するという快挙を成し遂げたらしい。

「…名前は…楚実・シガラス・透…。混血ミックスか…。」

パンフレットをざっと読むと、透少年のことを書かれていた。シガラスという魔物のカットも一緒に載せており、彼とシガラスは先

の尖った耳が似ていた。彼もまた、風萌学園に在籍していたらしい。

廊下で佇んでいると、後ろから邦彦を呼ぶ声がする。よく通る声に振り向くと、邦彦と割と仲のいい青年が爽やかに駆け寄ってきた。「邦彦ー。いいトコにいた。図書館行くんだろっ？ちよっと付き合っで。」

にかつと笑った青年に実験台名<sup>テストネーム</sup>はついていない、小野寺光輝という普通の人間である。光輝は性格のよさから、邦彦とも打ち解けることができたのだ。

「小野寺…今度はなんだ？新種か、新製品か、若しくは新戦法か？」

邦彦は何度か光輝に付き合わされているため、目論見くらい読める。併し今回はちよつと違うようだ。光輝は舌を出して内緒、と笑って見せた。別に断るなんて今更だから、今回もほいほいついていった。

「おー？邦彦、勇者戦出るの？あ、日詰に言われたんだろっ？邦彦サン優等生だからー。」

腕に抱えたパンフレットを見て、光輝が茶化す。光輝が読ませてと邦彦にいつてみると、割と簡単に差し出した。すぐ返すねー。と笑うと、パンフレットを眺める。

「あ、邦彦。場所、いつもの所だよー。」

既にパンフレットに集中した声で邦彦に声かける。ああ、と返事をすると、んー…。と間延びした返事が返ってきた。

いつもの所、の研究室に辿り着いた。本来「リコスモスの会」というよく分からない同好会のための部屋だったが、誰もいなくなつたので光輝が許可を貰って使用している。研究費はほぼ自費だそうだ。

「ふいー、邦彦ありがと。やっぱさー混血<sup>ミックス</sup>じゃない俺には望みな

いや。邦彦頑張るのかな？」

パンフレットを返されると、光輝は困ったように笑った。邦彦は何も返せなかった。出場を決めたわけではない。それでも光輝は勇者戦を邦彦に薦めることはしなかった。

研究室、といったも光輝が気まぐれに内装を変えるため、たいした荷物は置いてなかった。用務員さんから借りたらしい脚立が隅のロッカーの隣に立て掛けられており、あとは見覚えのあるテーブルとチェアが真ん中を陣取っていた。光輝は邦彦に着席を促すと、ロッカーからなにやら書類を取り出した。いつもならそれは新戦法だが、今回は光輝の顔がいつもより真剣だったために、邦彦はいつもより緊張した態度で話を聞くことにした。

「実は…ね。今まで勇者の名を語り、魔王に挑んだ者たちのデータをそーいうパンフレットからまとめたんだ。」

光輝は書類を差し出すと、文字を指でなぞる。

「…勇者戦って10年に一度、魔王を倒す勇者を選ぶため催されるだろう？ 実際、勇賞者は魔王討伐に向かっているんだ。どこに、と言えば精霊たちが誘うとかでよく分からないんだけど…。兎に角まだ続いている以上、魔王は倒されていないわけなんだよ…。今まで14回行われてきたけど、魔王は生きてるし、勇者は誰1人として帰ってきていない。そして何より、近年の魔物の強さが半端じゃない！…だからさ…、本当は…邦彦に出てほしくない、んだ…。勇者戦…。」

光輝の表情がだんだんと曇る。ついには俯いて肩を震わせた。何かを堪える声音で邦彦に告げた。

「…邦彦は知らないだろうけど…、俺…邦彦のソウルパートナーなんだ。うーん、マネージャーって言うか。情報を提供したり、専用の武器なんかを作ったり。…勇者にするためだよ。…でも言えなかった…勇者戦に出て…。言いたくなくて…。それで、…ソウルパートナー、辞めさせられるらしい…から…黙っててごめん。」

光輝が袖で涙を拭う。感極まって泣いたようだ。

「…邦彦とは友達で居たかった……。ソウルパートナーじゃなくなったら、俺退学だから逢えなくなる…。」

光輝の話によると、風萌学園に在籍する人間の大半はそのソウルマネージャーらしい。だから混血<sup>ミックス</sup>と人間では受験内容が違うのに、同じクラスに混ぜられるわけだ。邦彦は、魔王を倒すことに興味はなかったが決心した。

「…小野寺、いや…光輝。ソウルパートナーていうの辞めなくていい。勇者戦に出るから、俺。」

稀に見る邦彦の真摯な眸に、光輝は息を飲んだ。

## 1 度目の決意（後書き）

… 1 話目です、わりとめんどくさく書いてます。  
雰囲気重視と言う苦い逃げ方しました。  
RPG 風味効かせました、これでも…。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5852k/>

---

休めよ、剣

2010年10月28日03時31分発行